

懇談会の内容

※以下児童提案等の内容について、①は『中野市のすきなところ』、②は『未来に向けてこんな中野市であってほしい』、③は『中野市にお願いしたいこと』です。

【1班・2班の提案】

●1班：佐藤望羽さん、柴本和志さん、高田雄大さん、山口夢乃さん

①中野市は、交通整備が整っていて、古い道路があったら工事をしてくださるところが、とても素晴らしい点だと思います。

②歩道のない場所や、道路の白線が消えかけて見えない場所では、車と接触しそうなこともあり、危険だと感じます。そこで、「安全で事故の少ない中野市」を目指してほしいと、私たちは考えています。

③中野市にお願いしたいことがあります。交通事故をなくすために、次の提案をします。

(1) 横断歩道をより多くつくり、標識もたてる。

(2) 人が多い曜日などに、交通安全を見守るボランティアをつける。

警察がスピード違反などを取り締まっている場面もよく見るため、地域の方がたまに居るだけでは十分ではないと感じます。低学年の子たちのことも心配です。

(3) 交通安全を呼びかけるようなポスターを作ったり、イベントを開催したりする。

子どもも楽しめるようなイベントを行ってほしいと思います。例えば、横断歩道を渡るときの演技を見せたりクイズを出したりして、「道路は危ない」と分かってもらえるようにイベントを実施するとよいと思います。

●2班：上野恵菜さん、神戸琉花さん、松下湊人さん、森山竜成さん

①中野市の良いところは、北信濃ふるさとの森文化公園や一本木公園などのように、小さい子どもでも遊べる場所があることです。私たちも行ったことがあり、楽しかったです。

また、市内には2つのインターチェンジがあり、中野市周辺の市町村や県外に移動しやすいところも良い点だと思います。

②中野市には昔に造られた公園が多いためか、遊具にヒビが入っていることもあり、老朽化してきていると感じます。ヒビが入っていると、急に遊具が倒れるなどの危険性があり、安心して遊べないと思います。

交通の面では、遮断機のない踏切や、白線、縁石のない道路があり、危ないと感じます。また、道が狭いところもあり、車と小学生の間がとても近くて触れそうになってしまうこともあります。

そこで、未来に向けて、「小学生が安心して過ごせる街」にしてほしいと思っています。

③それを実現するために、次のことを提案します。

(1) 通学路となる道路に、白線を引いたり縁石を作ったりしてほしい。

- (2) 遮断機の無い踏切に遮断機をつけてほしい。
- (3) 交通ルールを小学生だけでなく大人も守れるように、講演会などを開いてほしい。
- (4) 老朽化している遊具や草がたくさん生えている公園を整備してほしい。

市長の回答

順不同での回答となってしまいますが、まず、交通安全のボランティアについては、中高交通安全協会という会の方々に無償でご協力いただいております。毎月5日と20日、加えて年4回の交通安全週間中に、活動していただいております。見たことのある人もいるかもしれませんが、蛍光黄緑のウェアを着て旗を持っている人たちがボランティアの方々です。

次に横断歩道を増やすことについてですが、歩行者の安全のためにも横断歩道はとても重要なものですよね。ただ、横断歩道をつくりすぎてしまうと、車が短い距離を進んでは止まるという動作を繰り返すこととなり、却って安全面や交通の流れといった観点で問題が発生します。そのため、ある程度間隔を設けたり、公共施設である学校や保育園の近辺に設置したりと、色々な要素を考慮したうえで設置場所を考えています。また、これは市役所の人たちだけで解決できる問題ではなく、警察の皆さんとお話ししたうえで、必要と思われる場所の優先順位を考えながら設置しています。

遮断機のない踏切に遮断機をつける、このことにつきましては、まず、長野電鉄と相談しながら進めていく必要があります。さらに、大変なお金もかかります。そのため、今考えているのは、遮断機のない踏切を通れないようにし、近くの別の踏切を通行してもらうよう誘導することです。法律やルールにのっとって、踏切を減らしたり増やしたりしています。踏切を減らして危険を回避する方法もあるということですね。

交通安全関連のイベントや講座についてお話しします。まず、大人は免許を取ったら、毎日当たり前のように車を運転しますよね。速度制限があるにもかかわらず、慣れてくるといつの間にかスピードを出しすぎてしまう、なんてこともあるかもしれません。ですから、私たち大人がきちんとルールを守って運転しているかどうかを確認するため、警察の皆さんが見回りなどを行っています。つまりは、皆さんのおっしゃるとおり、子どもだけでなく、大人も一緒になって交通安全について学べる機会、これを設けることはとても良い考えだと思います。

私が小学生のころには年に何回か自転車講習会があって、みんなで標識や交通ルールについて学びました。学校の敷地内に道路を模したような交通公園があって、そこで一時停止や左右の確認などを実際にやりながら勉強しました。今ももちろん行われていることと思いますが、子どものうちに学んだことは大人になってからも活かすことができます。今のうちにきちんと交通ルールを学んでおくと、いつかバイクや車の免許を取るときに、この標識は何を示しているのか、なぜこういったルールがあるのかなどをきちんと理解でき、新たに覚えなきゃいけないことも少なくて済みますよね。

公園の整備についてですね。雑草の手入れは、市から依頼をした方々にやっていただいているほか、地元区で管理している公園もあります。

大きな問題は、皆さんが遊びたい遊具の老朽化ですね。すべり台で手をけがしてしまった、ブランコをこいでいたら友達とぶつかってしまった、こういったことが起こらないよう、老朽化した遊具を撤去したり、要望によっては、今の時代に合った安全な遊具を新たに設置したりすることもあります。

あとは、道路に白線を引くか縁石をつくってほしいとの要望ですね。場所によっては、広い道だったはずがある地点から急に狭くなったり、またはその逆もあります。ですので、道路上にドットラインを引くことで車にスピードを抑えてもらったり、学校付近の道路をカラーリングして「このあたりは子どもが通りますからスピードを落としてくださいよ」と注意を促したりと、警察の方ともお話ししつつ対策を進めています。また、県道の場合には、県の方をお願いして安全な交通対策をとるようにしています。

現時点でまだ歩道ができてない場所、途中まで歩道が完成しているのに先が繋がってない場所などあるかもしれませんが、工事にはどうしてもお金がかかりますので、予算を確保でき次第、歩道の整備等進めていきたいと思っております。

【3班の提案】

●3班：小林彩羽さん、高田結花さん、柴本権瑠さん、藤澤龍太郎さん

①中野市の良いところは、畑が多く、りんごやぶどうなどの果物がたくさん作られているところです。また、高社山など山々に囲まれており、自然豊かなところも良いです。

②自然豊かだからこそ、猿やきつね、たぬきなどの野生動物も沢山います。その動物たちが、畑を荒らしたり、人に攻撃したりすることがあると、危ないと感じます。わたしたちは「野生の動物と共に生活する中野市」にしたいと願っています。

③野生の動物と共生するため、3つの提案をします。

(1) 動物が山の中でも美味しいご飯を食べられるように、山の中に動物専用の畑（餌場）を作る。

(2) 生ごみを外に置かないよう、ポスターなどで呼びかけをする。

(3) 自然を壊さずに、畑の周りにフェンスを張る。

市長の回答

中野市では電気柵を導入しており、南側の山際から、反対は岩井東の北側まで柵を張っています。電気柵の距離ってどのぐらいあると思う？

(挙手制で子どもたちに発言してもらい、3m、10km、100kmなど様々な予想が出ました。) 電気柵は約40kmあります。直線では15kmくらいでしょうか。山の際に沿ってうねるように柵が張られているので、実際の距離は長くなっています。

ただ、電気柵を張っているとはいえ、例えばイノシシなんかは利口なので、電気柵の下を掘り進んでこちら側に出てきてしまいます。クマさんも体が大きいのでたまに上手く柵を乗り越えてしまうことがあります。また、冬になると雪が積もりますので、その間は一旦柵を倒しておく必要があり、春頃に柵をもう一度たてています。距離が長いので、一部壊れてしまった箇所などあれば補修しています。ですので、なるべく柵の土台部分をコ

ンクリートで作り、人が何回も手入れしなくても済むように、半永久的に使える電気柵を作りたいと今考えています。

ただ、こういった対策をしても、食べ物を求めて動物たちはなんとか柵を乗り越えようとしたり、柵のない川を下って来たりします。動物がおいしいご飯を食べられるよう山に専用の畑をつくる、これは非常に良いアイデアですよね。ただ、人間の食べ物、例えばぶどうや桃やとうもろこしなどは、クマさんたちにとっても大好物で、このおいしい味を覚えてしまうんです。皆さんの中に、どんぐりを食べたことのある人はいますか？どんぐりってとても苦いんですよ。だから、一度甘い果物の味なんかを覚えてしまうと、彼らは今まで食べてきたどんぐりよりも人間の食べ物を求めるようになります。ですので、その辺りは猟友会の皆さんと協力して、まちに入ってきたら捕まえて山にかえすなどの対処をしています。つまり、動物たちが絶対に電気柵を越えることがないといえる環境になれば、どんぐりなどの本来動物たちが食べるもので専用の餌場を山に作るという方法も、1つの手になると思います。

次は、生ごみを外に放置しないようポスターなどで呼びかけて欲しい、という提案ですね。これは非常に大切だと思います。皆さんもぜひ機会があれば、そういったポスター作りを授業で企画していただければと思います。

朝、市役所に来る途中で、ゴミ置き場のゴミのちょうど網がかかっている箇所をカラスがつついて見かけます。市としても、きちんとゴミに網をかけ、長時間外に放置しないように取り組んでまいります。

自然を壊すことなく畑の周りにフェンスを張って欲しいということについては、先ほど話した電気柵等もありますので、なるべく鳥獣の被害が出ないような方向で今後も対策していきます。

【4班の提案】

●4班：小林凜心さん、飯田隼生さん、関彩葉さん、宮崎恵太さん

①中野市のよいところは、農業が盛んで、地元の新鮮な果物を食べられるところだと思います。また、様々な種類の果物狩りや、公民館などでは食べ物に関わるイベント（料理教室など）も行われています。

②中野市の特産品を使って市を盛り上げたらどうかと考え、「中野市の農作物をもっと有名にしたい」と願っています。

③それを実現させるため、以下の3つのことを提案します。

(1) 中野市の特産品を使った料理を作って販売する。

(2) 市外や県外で、今より広く宣伝をする。

(3) 中野市のりんごやぶどうを使ったスイーツを作り、コンテストをする。

市長の回答

中野市のエノキタケは生産量日本一ですし、他には、シャインマスカットやナガノパープル、巨峰などのぶどうも有名ですね。中野市の特産品を使った料理を作って欲しいとのことで、中野市では料理講習会を開催しています。去年は千人以上の方に参加していただ

きました。今年度も、小学生の皆さんに参加していただける料理講習会を計画しています。

2つ目、市の特産品について県外や市外で今よりも広く宣伝して欲しいということで、Vtuber『信州なかの』ちゃんが、インターネットを中心とした広報活動を行ってくれています。彼女の名前は、公募によって応募総数500件以上の案の中から決定しました。

Vtuberなかのちゃんの痛車もありまして、市の公用車のうち1台には、信州なかのちゃんによるナカノちゃんのラッピングが施されています。エノキタケやシャインマスカット等も一緒に描かれていますので、市外に行くときなどはこの車を使い、中野市や市の農産物について宣伝をします。最近では痛車で愛知県や東京都など県外に出向いて様々なイベントに参加しており、痛車の存在を知った相手方から、中野市さんぜひ来てくださいといった具合で声をかけていただくことも多いです。

全国には、中野市のように人が集まっている市町村、つまりは自治体が、1700以上あります。ですから、その中で中野市を覚えてもらうにはどうしたらいいかと考えたときに、Vtuber信州なかのちゃんを市のPRキャラクターとして起用するという新しい試みによって、中野市をより広く知っていただくという思いがあります。

なお、中野市の特産品はお店で販売しているだけでなく、ふるさと納税の返礼品として寄付をしてくださった方にぶどうやりんご等を届けており、全国から応募があります。

また、中野市の魅力をより幅広い世代へ発信するために、とある漫画家の方に依頼をして、市内の有名な施設等について知ることのできる漫画を製作する、という企画を進めています。

そして3つ目の提案、中野市のリンゴやブドウを使ったスイーツを作りコンテストを開催する、これは非常に素晴らしいことだと思います。農業関係者の方も、例えばシャインマスカットを使ったサイダーの販売など、みなさんのアイデアに近いことを行っています。スイーツは年齢性別問わず多くの方に人気がありますから、中野市産の果物を活かしてどんなスイーツを作ることができるのか、そういった試みとしてコンテストという案は非常に面白いと思います。今後実施できるような機会を見つければ良いと思います。

【5班の提案】

●5班：小林若夏さん、坂口楓真さん、木村龍季さん、佐藤はおなさん

①中野市の良いところは、果物が新鮮で甘くて美味しいことです。また、静かで住みやすいことや、シャクヤクなどの花がきれいなことも、良い点だと思います。

②道路には思っているよりもたくさんのゴミが落ちていると感じます。延徳小学校では、1か月に1回ゴミ拾い登校をしています。その時に、タバコのすいがらやお菓子のゴミなどが多いと感じました。そこで、未来に向けて、「ゴミがなくてきれいな中野市」にしてほしいと思います。

③きれいな中野市を目指すために、まずは、ゴミが落ちていると環境に良くないということ、多くの人に知ってもらう必要があると思います。そこで、3つの提案をします。

- (1) 「みんなで地域のゴミをなくそう」と書いた看板を立てる。
- (2) 地域全体で取り組む活動として、地区毎に毎月1回、近所の人とゴミ拾いをする。
- (3) 様々な場所にゴミ箱を作る。

教育次長の回答

はじめに、延徳小学校6年生の皆さんには、桜沢駅の清掃活動を長い間続けていただいているということですので、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。ぜひ今後も続けていただけるとありがたいです。

みんなで地域のごみをなくそうと書いた看板をつくる、これは大切なことですね。そして、落ちているゴミを見つけたら、誰かが拾ってくれるのを待つのではなく、自分で拾うという意識をもつことも重要です。まずは自分の周りの半径約2メートルの範囲内でゴミがないか探して拾う、そうするとお家の周りがきれいになり、次第に地域全体が、そして中野市、日本、世界といったように、輪が広がっていきます。小さなことでも、多数の人が取り組むことで大きな影響力がうまれます。

みんなで地域のごみをなくそうという意識、これは大変素晴らしいことです。実は高丘に『高丘ゆるゴミ拾い部』というボランティアの集まりがありまして、高丘地区の住民の方々が定期的に道路沿いのゴミ拾いを行ってくださいます。親子で参加してくださる方も多いです。

ゴミをポイ捨てしてしまうような大人が一部いることも事実で、皆さんのような子どもよりも大人こそ、きれいなまちづくりへの強い意識を持つべきだと思います。特にプラスチックの多さは近年世界的な問題となっており、海まで流れてしまったプラスチック破片等を魚が食べてしまい、食用として売られている一部の魚からプラスチックの成分が検出されたという新聞記事も出ていました。このように、何気なくポイ捨てしたことでその後自分にしっぺ返しがかかることもあるわけですから、環境問題も考慮すると、地域の組合などでゴミを捨てないよう呼びかける看板をつくる、これは必要なことだと思います。

地域で協力して毎月ゴミ拾いを行うということについて、先ほどお話ししたとおり、実際に高丘地区で行われているゴミ拾い活動も、最初は参加者が少なかったのですが、継続的に行うことで次第に周りの意識も高まり、結果参加者は増えています。ですから、地域の中で誰かが「やるよ」と声を上げてくれたときに、そこから月1回のゴミ拾いを強制して行うのではなく、自主的にやりたい人を集めていくと続くと思います。やれと言われたことは結局嫌々やるので長く続きませんが、自分の中でやりたいという前向きな気持ちが湧き上がれば、地域全体を巻き込んだ活動も形になっていくと思います。

市内各所にゴミ箱を設置して欲しい、確かにそう思いますよね。ただ、問題がありまして、街中にゴミ箱を置いておくと、道端に落ちているゴミを拾って捨ててくれるだけでいいのに、各家庭で片付けなければいけないゴミまで持ってきて捨ててしまう人が出てくる可能性があります。ですので、場所によってゴミ箱を置く場所と置かないほうが良い場所があるかなと考えています。